

# がん患者と新型コロナウイルス感染症について



感染症科部長  
山本 舜悟

## Q1 | がん患者は新型コロナウイルスに感染しやすいですか？

がん患者さんは、がんそのものによって抵抗力が低下している可能性があります。また、抗がん剤などの治療によってさらに抵抗力が下がるため、新型コロナウイルス感染症には、がんがない人と比べてかかりやすい可能性があります。

## Q2 | 感染予防についてどのようなことに気をつけたいですか？

がん患者ではない人と同様に、不要不急の外出を控え、密集・密閉・密接のいわゆる「3密」を避けることが大切です。特に、換気の悪い空間で、空気が循環するような場所では、エアロゾル（空気中に浮遊する微小な粒子）による感染が起こる可能性があります。換気をよくすることも非常に重要です。

病院を受診したり、治療を受けたりする時には、マスクを着用し、できるだけ人との間隔を2メートル（最低1メートル）あけるように心がけるとよいと思います。

手洗いも基本的な予防方法として大切です。手すりやドアノブ、公衆トイレなど、多くの人に触れるような場所を触った後は、流水と石けんをつけて20～30秒間丁寧に洗いましょう。手を洗う場所がない場合は、アルコール消毒剤による手指消毒も有効です。

また、睡眠不足や栄養不良は抵抗力を落とすので、睡眠をしっかりとり、バランスのよい食事をとるこ

とも大切です。喫煙者において、新型コロナウイルス感染症の重症化の危険性が高くなる懸念があり、禁煙も重要な予防方法の一つです。

## Q3 | どのような症状があれば、新型コロナウイルス感染症を疑えばよいですか？

発熱や咳、のどの痛みなど、初期の症状は普通の風邪と区別が付きにくいものです。味や臭いが急にわかりにくくなる症状は比較的新型コロナウイルス感染症に特徴的です（抗がん剤治療を受けている人は治療の種類によっては味覚障害がでることもあります）。

普通の風邪の場合は、症状が出てから3日間ほどすればピークを過ぎて楽になってくることが多いです。しかし、3日間を過ぎててもよくなる場合や、かえって悪くなっていくような場合は、普通ではないことが起こっているかもしれません。このような場合、新型コロナウイルス感染症の他、細菌による肺炎や副鼻腔炎の可能性を考えますので、医療機関への受診が必要になります。普通の風邪と比べて症状が強い場合や、息苦しさを感じるような場合、食事や水分が取れない場合には、3日間を待たずに、早めに担当医へ相談しましょう。

抗がん剤治療を受けている場合は、治療に関連した発熱や感染症の可能性がありますので、あらかじめ発熱したらどうしたらよいかについて、主治医に相談しておくとういと思います。

## Q4 | インフルエンザの予防接種は受けた方がよいですか？

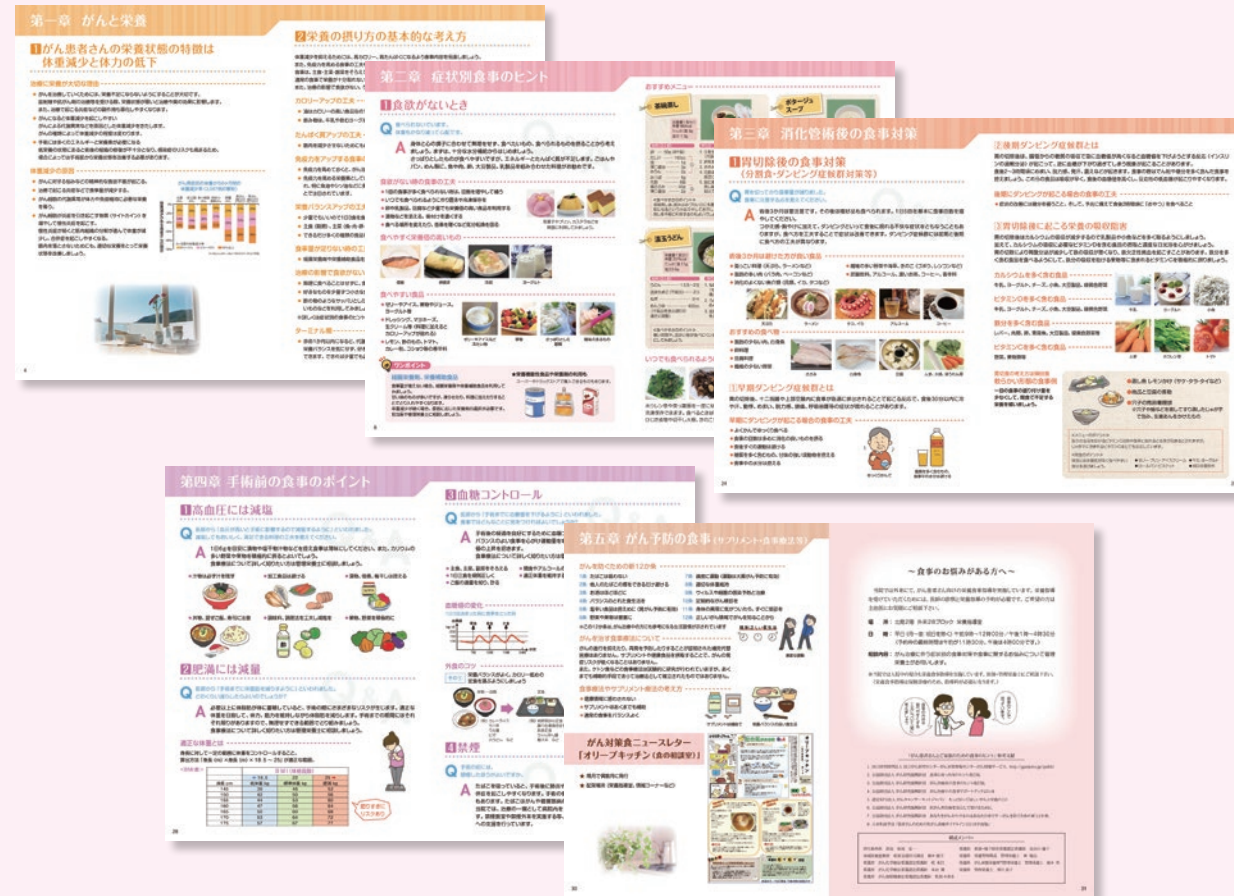
是非受けて下さい。この冬は、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの両方が流行することが予想されます。両者は症状だけで区別することが困難ですし、インフルエンザもがん患者さんがかかると重症化の危険性が高いため、インフルエンザの予防接種は毎年必ず受けるようにしましょう。インフルエンザや風邪をひいた後は、細菌による肺炎も起こしやすくなるため、まだ接種されていない方は、肺炎球菌の予防接種も受けるとよいでしょう。



# 京都市立病院 トピックス 「がん患者さんご家族のための食事のヒント最新版」について

2016年4月に「がん患者さんご家族のための食事のヒント」を発行し、好評をいただいておりますが、第二版（最新版）を2019年4月に発行しました。

初版は、「食欲がないとき」「味覚の変化があるとき」「食事のにおいがあるとき」と、がん患者さんから相談の多い内容を中心にしましたが、最新版では、「がんと栄養」「症状別食事のヒント」「消化管術後の食事対策」「手術前の食事のポイント」「がん予防の食事（サプリメント・食事療法）」とさらに充実した内容になっております。



京都市立病院の患者さん・ご家族さんだけでなく、希望される方にはお渡ししておりますので、患者支援センターにご相談ください。また、1階や2階のラック、2階の情報コーナーにも置いてありますので、ご自由にお持ち帰りください。

# みぶなの会

自分らしくがんと向き合うために



- ② 投稿 みぶな広場
- ⑤ がん患者と新型コロナウイルス感染症について
- ⑥ 京都市立病院トピックス 「がん患者さんご家族のための食事のヒント最新版」について



# みぶな 広場

## 「祈り」 M.I



新型コロナウイルスによる感染が拡大して私達の日常は大きく変わりました。みぶなの会も2月の終わり頃から休止となりましたので、私はまた会える日が来るかしらと一抹の不安を抱きながら、食料品の買い物と通院以外は外出を控えて家で過ごすようになりました。

そのような中で一番気になったのは、医療用のマスクやガウンが不足して感染のリスクがあるにもかかわらず、献身的に患者を診ておられる市立病院の医療に携わる方々のことでした。それ故、私は毎日「ありがとうございます」と手を合わせ、「皆様が無事でありますように…」祈らずにはいられませんでした。

今は感染者の数も少なくなりましたが、まだ終息していないので、ここで気を抜かずいずれ来るとされる第二波・第三波に備えて、これまでの自粛生活の中で身についた新しい暮らし方を続けていきたいと思っています。

そして、2月16日の京都新聞で清水先生(感染症科部長\*)が、高齢者や持病のある人の注意点や対策についてお話しになっていたことを守って、自らが感染しないよう、そして人に移さないように心がけて一日一日を大切に過ごしたいと思っています。

治療薬やワクチンが早く出来ることを祈りながら…。

(令和2年6月28日記す)

※現副院長

## 「頑張っています」 T.S



コロナウイルスによる人生初めての自粛生活！

あちこち飛び回っていた日常生活が一変。

毎日 新聞、テレビとにらめっこ。

「STAY HOME」

それにつられて、つつい甘い物に手が延び～～(^\_-)

あっという間に体重が～～ (>\_<) 中性脂肪が～～ (>\_<)

これはあかんと心機一転。人出の少ない時間を見計らってウォーキング。そして

娘が参加しているオンラインヨガの仲間にも入れてもらい頑張っています。

最近は趣味の習い事もポチポチ再開されるようになり楽しんでます。



## 「この頃思うこと」 M.K



コロナ感染対策で、医療に関係する皆さんにありがとうございます。

感謝いたします。今まで体験したことがなく不安の日々でした。

解除となり普通の生活に戻りつつありますが、外出時は「三密」を出来るだけ避けて、水分補給にも気をつけ、マスクの着用と手洗いは習慣となりました。

我が家では、自然と家で過ごす時間が多くなり、夫婦の会話も弾むようになりました。ドラマを見ている時に、その時々場面に合わせて話が始まります。

苦しかった時や、楽しかった時、病気になった時、つらかった時、など、55年間の思い出が次から次に話題となり、大事な出来事となりました。

これからも、お互いに助け合い支え合って、第二波感染が来ても負けない体力作りを心掛けたいと思います。コロナウイルス感染が一日も早い収束を願っています。

